

一般教育科

1. 教育目標

21世紀を迎えた現代は、過去のどの時代にも見られないほど科学・技術が発達し、また国際化が進んできた。それに比して、人間性はむしろ希薄となり、個人の能力を超えて発達していく科学・技術によって従来の価値観が変えられ、その急激な変化にとまどいを感じている人も少なくない。教育現場では対人関係やアイデンティティの問題にうまく適応できない学生をはじめ、新たに様々な問題が生じているのが現状である。

いかに科学・技術が発達しても、人間そのものが優れた識見と豊かな人間性を備えていなければ、科学・技術を正しく用いることができないということは、過去の歴史が明確に示しているところである。ところが、今日の社会では、すべての分野で細分化と専門化が進行しており、その結果、学校教育もまた細分化、専門化がなされている。このような時代にこそ、全人教育という側面が、学校教育において必要とされるのではないかと我々は考えている。

そうした点から、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成（学校教育法第70条の2）」する専門教科とあいまって、豊かな人間性と優れた識見を備えた学生を育成することが、本校における一般教育科に課せられた責務であると捉えている。本校の使命の一部にある「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」のための一翼を担うことこそ、一般教育科の目指す目標なのである。

高等専門学校は、中学校を卒業した若い15歳の学生を受け入れた後、僅か5年間で社会人として必要な一般教養を習得させ、専門の学芸と職業に必要な能力を身につけた技術者として実社会へ送り出さなければならない。高校卒業の学生を受け入れる大学等に比して、高等専門学校の一般教育科の任務は重大である。

2. 授業内容

本校の一般科目では、人間教育、人格形成を重視し、志操高く、視野広い人間を育成するために国語、歴史、哲学、倫理・社会、政治・経済、法学、地理の人文社会科学系の科目、健全な心身を形成するために体育科目、豊かな情操を育てるために美術、音楽、書道の芸術科目、さらに、専門教育につながる基礎学力の向上を図るものとして、数学、物理、化学の理数系科目が課されている。更に、ますます国際化していく社会に適應できる人間を育成するために、英語などの外国語も重要科目と位置づけている。また、数学においてはよりきめの細かい指導を実現するために、習熟度別授業を導入している。これにより、従来不足しがちであった演習を積極的に取り入れた授業が可能となっている。

別表第1
一般科目

(平成21年度以降入学者)

	授 業 科 目	単位数	学 年 別 単 位 数					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必 修 科 目	国 語	6	3	3				1科目2単位 を選択必修	
	国 語 A	2			2				
	国 語 B	1			1				
	倫 理 ・ 社 会	2		2					
	政 治 ・ 経 済	2			2				
	歴 史	4	2	2					
	地 理	2	2						
	数 学	基 礎 数 学 I	4	4					
		基 礎 数 学 II	4	2	2				
		微 分 積 分 学	6		4	2			
		応 用 解 析 学	4			4			
	物 理	5	3	2					
	化 学	5	3	2					
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1		
	音 楽	2	1	1					
	美 術	2	1	1					
	書 道	2	1	1					
	英 語 I	8	2	3	3				
	英 語 II	6	2	2	2				
英 語 III	1	1							
計	74	28	26	18	1	1			
選 択 科 目	文 学 特 論	1				1			
	社 会 特 論	1					1		
	自 然 特 論	1					1		
	英 語 特 論	1				1			
	数 学 概 論 I	1				1			
	数 学 概 論 II	1				1			
	数 学 概 論 III	1					1		
	英 語 IV	2				2			
	英 語 V	1					1		
	英 語 VI	1					1		
	独 語 I	2				2			
	独 語 II	2					2		
	中 国 語 I	2				2			
	中 国 語 II	2					2		
	哲 学	2				2			
法 学	2					2			
教 育 支 援 活 動	1		1						
選 択 科 目 履 修 単 位 数	1以上	1以上							
必 修 科 目 履 修 単 位 数	74	28	26	18	1	1			
履 修 単 位 数	75以上	28以上	26以上	18以上	3以上				

科目名	国語A Japanese A			担当教員	森 孝宏		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義・演習	科目番号	12G03_20011	単位区別	履修
学習目標	1. 現代文や古典の読解を通して、他人のものの見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
進め方	講義形式を基本に、論述演習を随時組み入れる。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 漢文「鴻門之会」(4) 2. 現代文「舞姫」(前) (11)			近代文学に触れ、自我の変革を促す。 A1:3			
	[前期中間試験] (1)						
	3. 試験解説 (1) 4. 現代文「舞姫」(後) (10) 5. 漢文「四面楚歌」(4)			日本人の思考を知り、自我意識を考える。 A3:1-2			
	前期末試験						
	6. 試験解説 (1) 7. 現代文「こころ」(7) 8. 漢文「守業」(2) 9. 古文「花山院の出家」(3) 10. 公文書書式演習(2)			多様な視点による柔軟な思考力を養う。 A1:3 自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2			
	[後期中間試験] (1)						
	11. 試験解説 (1) 12. 現代文「山月記」(8) 13. 漢文「小国寡民」(2) 14. 古文「花は盛りに」(2) 15. 報告書書式演習(1)			登場する人物の心情を追体験する。 B1:1-2 物事の核心を把握する方法を身につける。 A3:1-4			
	後期末試験						
16. 試験解説 (1)							
評価方法	評価の内訳：定期試験 80%，提出物・平常点 20%						
履修要件	特になし。						
関連科目	国語（1年）→国語（2年）→国語A（3年）→文学特論（専攻科2年）						
教材	教科書：高等学校現代文 改訂版 三省堂 柴田武他編 教科書：新編古典 筑摩書房 鈴木日出男他編 参考書：新訂新国語便覧 第一学習社						
備考	特になし。						

科目名	国語B Japanese B			担当教員	富士原 伸弘, 東城 敏毅		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G03_20012	単位区別	履修
学習目標	理科系に必要なレポート・論文の書き方を演習と実践を通して習得する。						
進め方	講義・演習をセットとして、授業内で文章を書く演習を積み重ねる。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. ガイダンス (1) 2. 音声と文字コミュニケーション (1) 3. 文章の分類 (2) 4. 事実と意見の区別 (2) 5. 適切な語の選び方 (2) 6. 読み手が理解しやすい文 (2) 7. 読点の打ち方 (1) 8. 読み手の期待にそって展開する文章 (1) 9. 文体の統一 (1) 10. 文献の引用 (2)			現代を把握するうえで必要な、現代キーワードに習熟する。 B1:1-2 自分の考えを要領よくまとめる。 B2:1-2 説明内容を理解させる工夫をする。 B3:1-3			
	前期末試験						
	11. 試験問題の解答 (1) 12. レポート・論文の書き方 (2) 13. レポート・論文を書く技術 (2) 14. テーマを絞る技術 (2) 15. 型を守って書く技術 (2) 16. 小論演習 (3) 17. 推敲 (1) 18. 再提出 (1)			自分の考えを要領よくまとめる。 B2:1-2 説明内容を理解させる工夫をする。 B3:1-3			
	後期末試験						
	19. 試験問題の解答 (1)						
評価方法	評価の内訳： 定期試験 60%， 提出物 20%， 授業内演習 20%						
履修要件	特になし。						
関連科目	国語 (1年) →国語 (2年) →国語A・B (3年) →文学特論 (専攻科2年)						
教材	教科書： Practical 日本語文章表現編 おうふう 清水明美・岩沢正子他編 また、プリント等を適宜配布する。						
備考	特になし。						

科目名	政治経済 Politics and Economics			担当教員	山岡健次郎		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G03_20030	単位区別	履修
学習目標	政治経済に関する固定的な知識を学ぶのではなく、揺れ動く状況を読み解く眼を養っていく。 とりわけグローバル化の進行する現代社会にあっては、既存の認識枠組みはもはや有効性を失いつつある。 国家単位の発想をいかに乗り越えるのか、という視点が問題の核をなす。						
進め方	前期は政治に関する認識を深めていき、後期は経済事象を理解する力を養っていく。 授業は、配布されるプリントを中心に進めていく。 さらに、できるだけ時事的な事象を取り上げ、メディアの読み解き方を紹介していく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 授業の目的 (1) 2. 政治とは何か (3) 3. 民主政治の歩み (2) 4. 人権思想の拡がり (2) 5. 新しい人権 (1) 6. 政治的思考の特質 (2) 7. 政治的リアリズム (3) [前期中間試験] (2)			政治という人間活動の特徴を原理的に理解する。 A2:1 民主化の流れと人権確立の相互関係を知り、それが必ずしも直線的な歴史過程ではないことを理解する。 A3:3 政治的判断の特色と困難について学ぶ。 A1:3			
	8. 試験問題の解答 (1) 9. 政党とはなにか (2) 10. 政党とデモクラシー (2) 11. 国家とはなにか (2) 12. ナショナリズムについて (2) 13. 日本のナショナリズム (2) 14. メディアと政治 (2) 15. 戦争と平和 (2)			政治的システムと社会との関係性を理解する。 民主主義における政党の役割について再考する。 国家という政治的枠組みを問い直す。 ナショナリズムの両義性を理解する。 メディア・リテラシーを養う。 A1:3 A2:2, A3:2			
	前期末試験						
	16. 試験問題の解答 (1) 17. グローバリゼーションという視座 (2) 18. 多国籍企業という戦略 (2) 19. 資本主義経済システム (2) 20. 労働力の商品化 (3) 21. 労働者と近代家族 (1) 22. 資本主義のあらたな「外部」 (2) 23. 越境する人々 (2) [後期中間試験] (2)			グローバル化する経済の動きを考察する。 企業の多国籍化という現象を理解する。 A1:2 資本の蓄積過程を把握し、労働力商品化のプロセスを論理的に説明できる。 A3:1 資本がグローバル化する過程を動的に捉える。A3:1			
	24. 試験問題の解答 (1) 25. グローバルな労働力市場の成立 (3) 26. 政治と経済の相克 (2) 27. 会社とはなにか (3) 28. 日本型会社経営と日本のサラリーマン (3) 29. まとめ (2)			労働力の越境化という現象を理解する。 A1:3 株式会社の仕組みを知る。 会社のかたちと労働のかたちの関連性について学ぶ。 A1:1			
	後期末試験 試験問題の解答 (1)						
評価方法	4回の定期試験の平均点で評価						
履修要件	特になし						
関連科目	地理 (1年) → 歴史 (2年), 倫理社会 (2年) → 法学 (5年)						
教材	教科書:「高等学校 改訂版 新政治・経済」(第一学習社)						
備考	特になし						

科目名	微分積分学 Differential and Integral Calculus			担当教員	田村 恭士、南 貴之		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G03_20080	単位区別	履修
学習目標	この教科では、微分積分Ⅰに引き続き、微分積分のより進んだ内容と応用（関数の増減、面積、体積など）を学習する。						
進め方	指定教科書にそって学習内容を解説して行く講義形式。各自の自主的な学習が必要なのはいうまでもなく、練習問題を通して学習内容の定着を目指す。前期は2年生の微分積分学の続きを学習する。後期では偏微分及び2重積分をも取り扱う。基本的な概念の理解の上で、さまざまな計算ができることを重視する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 微分法の応用(11) (1)接線と法線 (2)平均値の定理 (3)関数の増加・減少と極大・極小 (4)関数のグラフ (5)いろいろな応用 (6)曲線の媒介変数表示 2. 不定積分(8) (1)不定積分とその性質 ----- [前期中間試験](2)			微分係数の意味を理解し、接線と法線の方程式を計算できる。 D1:3 基本的な関数の極値を計算できる。 D1:3 基本的な関数の不定積分を計算できる。 D1:3			
	(2)試験返却・解答 (3)置換積分法と部分積分法 (4)いろいろな関数の不定積分 3. 定積分(9) (1)定積分とその性質 (2)定積分の置換積分法・部分積分法 (3)定積分で表された関数 (4)定積分と和の極限 (5)定積分と不等式 前期末試験			置換積分法と部分積分法を用いて基本的な関数の不定積分を計算できる。D1:3 基本的な関数の定積分を計算できる。D1:3 置換積分法と部分積分法を用いて基本的な関数の定積分を計算できる。D1:3 定積分を用いて色々な極限の計算ができる。D1:3			
	(6)試験返却・解答 4. 積分法の応用(10) (1)面積 (2)体積 (3)微分方程式 5. 偏微分法(14) (1)2変数関数の定義 ----- [後期中間試験](2)			簡単な図形の面積や体積が計算できる。D1:3 簡単な微分方程式を解くことができる。 D1:3			
	(2)試験返却・解答 (3)学習到達度試験(*) (4)2変数関数の極限 (5)偏導関数 (6)接平面 (7)合成関数の微分法 6. 重積分法(8) (1)2重積分の定義 (2)2重積分の計算 (3)積分順序の交換 後期末試験			偏微分の意味を理解し、基本的な2変数関数の偏導関数を計算できる。D1:3 基本的な2重積分が計算できる。D1:3 積分順序の交換を計算できる。D1:3			
	(4)試験返却・解答(1)						
	後期末試験						
	(4)試験返却・解答(1)						
評価方法	定期試験 90%，レポートなどを 10%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	微分積分学Ⅰ → 微分積分学						
教材	教科書：「数学Ⅲ」，「新訂 微分積分Ⅱ」 問題集：「アクセスノート数学Ⅲ」，「新訂 微分積分Ⅱ 問題集」 参考書：「チャート式基礎と演習数学Ⅲ+C」						
備考	(*)は学習到達度試験が「微分積分学」の時間に実施される場合に適用。 情報通信工学科の学生は、以下に注意。第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除には本科目の単位取得が必要。						

科目名	応用解析学 Mathematical Analysis			担当教員	橋本竜太, 中空大幸		
学 年	3年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G03_20090	単位区別	履修
学習目標	この教科では、行列、行列式、線形変換の理論とその基本的な応用などを学習する。						
進め方	講義形式で行うが、その内容は教員からの一方的な説明のみで身につくものではない。授業の進度に合わせて受講生各自が予習復習をすることを前提として講義を進める。必要に応じて演習を行ったりレポートを課したりする。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 平面のベクトル (つづき) (8) (1) 位置ベクトル(2) (2) 平面図形の性質(2) (3) ベクトル方程式(3)			ベクトルの平面図形への応用ができる。		D1:3	
	2. 空間ベクトル(24) (1) 空間座標(3) (2) 空間のベクトル(5) (3) 位置ベクトル(2) (4) いろいろな応用(6)			空間のベクトルの演算ができる。		D1:2	
	[前期中間試験]						
	(5) 試験問題の解答(1)			行列の基本的な演算ができる。		D1:2	
	3. 行列(16) (1) 行列の定義(1) (2) 行列の和・差、数との積(2) (3) 行列の積(2) (4) 逆行列(2) (5) 連立1次方程式と消去法(2) (6) 逆行列と連立1次方程式(2)			行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。		D1:2, 3	
	4. 行列式(28) (1) 行列式の定義、行列式の性質(7) (2) 行列式の展開、行列の積の行列式(4)			行列式の定義および性質を理解し、行列式の値を求めることができる。		D1:1, 2	
	前期末試験						
	(3) 試験問題の解答(1) (4) 正則な行列の行列式(2) (5) 連立1次方程式と行列式(4) (6) 行列式の図形的意味(4)			クラメルの公式を用いて連立1次方程式を解くことができる。		D1:1, 2, 3	
	5. 線形変換(20) (1) 線形変換の定義と性質(6) (2) 合成変換と逆変換(3) (3) 回転を表す線形変換, 直交変換(4)			平面上の線形変換に関する計算ができる。		D1:1, 2	
[後期中間試験]							
(4) 試験問題の解答(1) (5) 学習到達度試験(*)			正方行列の固有値や固有ベクトルを求めることができる。		D1:1, 2		
6. 固有値と固有ベクトル(24) (1) 固有値と固有ベクトル(4) (2) 行列の対角化(4) (3) 対称行列の対角化(5) (4) 対角化の応用(5)			正方行列の対角化を計算できる。 2次形式の標準形や正方行列のべき乗を求めることができる。		D1:1, 2 D1:1, 2, 3		
後期末試験							
(5) 試験問題の解答(1)							
評価方法	定期試験 90%, レポートなどを 10%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	基礎数学Ⅱ (2年) → 応用解析学 → 応用数学						
教 材	教科書:「新版数学B」(実教出版), 高遠節夫他著「新訂 線形代数」(大日本図書) 演習書:「アクセスノート数学B」(実教出版), 高遠節夫他著「新訂 線形代数 問題集」(大日本図書) 参考書:「チャート式基礎と演習 数学Ⅱ+B」「チャート式基礎と演習 数学Ⅲ+C」(数研出版) その他, 教員作成プリントなど						
備 考	(*)は学習到達度試験が「微分積分学」の時間に実施される場合に適用。 情報通信工学科の学生は, 第二級陸上無線技術士の「無線工学の基礎」の免除を受けるには本科目の単位取得が必要。						

科目名	保健・体育 Health and Physical Education			担当教員	福濱孝志		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	12G03_20120	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明した上で、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。 団体種目については、個人の基礎技術を習得した上で、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール 説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
学習内容	学習項目（30時間）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【スポーツテスト】 2. 記録測定(3) 【ソフトボール・テニス選択】 3. 選択授業の説明、種目の決定(1) 4. ゲーム(10) 5. 実技試験(1) ----- [前期中間試験]			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえ るようにする。 F2:1-4 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4 ルールを把握した上で、自分たちで試合を運営でき ることを目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	【水泳】 6. 競泳種目の練習および遠泳(2) 【ゴルフ・バドミントン・卓球選択】 7. 選択授業の説明、種目の決定(1) 8. ゲーム(ゴルフは基本スイング)(10) 9. 実技試験(1) ----- 前期末試験			水に慣れると共に、泳力(持久力)の向上を目指す。 F2:1-4, F3:1, 2 基礎技術を修得すると共に、ルールと理論を理解し、 ゲームが行なえるようにする。 F2:1-4, F3:1-5			
	【バレーボール・バスケットボール選択】 10. 選択授業の説明、種目の決定(1) 11. ゲーム(13) 12. 実技試験(1) ----- [後期中間試験]			1・2年時に基礎技術を修得しているので、ゲーム中 心の内容で、チームの戦術の向上、審判技術の向上を 目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	【サッカー・ゴルフ選択】 13. 選択授業の説明、種目の決定(1) 14. ゲーム(13) 15. 実技試験(1) ----- 後期末試験			サッカーは、1・2年時に基礎技術を修得しているの で、ゲーム中心の内容で、チームの戦術の向上、審判 技術の向上を目指す。またゴルフでは、バードゴルフ などを取り入れて実践的なことを体験する。 F2:1-4, F3:1-5			
	後期末試験						
	後期末試験						
評価方法	各種目の実技試験と平常点(出席率, 授業態度)で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」(総合版) 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	英語 I English I			担当教員	鳥越 洋子		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G03_20160	単位区別	履修
学習目標	文法の理解を増し、単語を覚えることで英語への知識を深める。英語をより良く理解し、英作文や英文の読解が容易になることを目標とする。						
進め方	授業では英語特有の文法構造を理解し、確認のための問題練習を行う。3時間の授業を2つに分けて、2時間の授業では文法事項の問題を解く。1時間の授業では英語構文や表現を学習する。ここでは2時間の文法事項について述べる。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. シラバス解説	(1)		文・動詞・文型を理解させる 動詞と時制を理解させる	B1: 1, 2 B1: 1, 2		
	2. 文の種類	(6)					
	3. 文の要素と文型	(6)					
	4. 時制	(6)					
	5. 試験範囲のまとめ	(3)					
	----- [前期中間試験] (1)						
	6. 答案返却・解答	(1)		完了形を理解させる。 助動詞を理解させる。 態を理解させる。	B1: 1, 2 B1: 1, 2 B1: 1, 2		
	7. 完了形	(5)					
	8. 助動詞	(9)					
9. 動詞の態 (1)	(3)						
10. 試験範囲のまとめ	(3)						
前期末試験							
11. 答案返却・解答	(1)		不定詞を理解させる。 動名詞を理解させる。 EL 動名詞を理解させる。	B1: 1, 2 B1: 1, 2 B1: 1, 2			
10. 動詞の態 (2)	(3)						
11. 不定詞	(9)						
12. 動名詞	(3)						
13. EL 動名詞	(3)						
14. 試験範囲のまとめ	(3)						
----- [後期中間試験] (1)							
15. 答案返却・解答	(1)		分詞を理解させる。 比較を理解させる。	B1: 1, 2 B1: 1, 2			
16. 分詞	(10)						
17. 比較	(7)						
18. 試験範囲のまとめ	(3)						
後期末試験							
19. 答案返却・解答	(1)						
評価方法	定期試験 80%, 取り組み態度, レポートなどを 20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 II (3年)						
教材	『Dual Scope English Grammar in 27 Stages』 数研出版 『Workbook for Dual Scope English Grammar in 27 Stages』 数研出版 『Hyper Listening PLUS Elementary』 桐原書店						
備考	特になし						

科目名	英語 II English II			担当教員	下林 千賀子		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G03_20170	単位区別	履修
学習目標	英文の読解が容易になることを目標とする。英文を読みながら、文法を把握し単語を覚えることで英語をより良く理解し、英語への知識を深める。						
進め方	新出単語や熟語の意味を調べて、英文の内容を理解していく。リーディングストラテジーを学び英語の語順に従って意味をとらえていくフレーズリーディングの練習を行うとともに、パラグラフごとの主題と内容をつかみ 英文の構造を考慮することができるようにする。また重要表現と文法をピックアップし学習する。ワークブックで自己演習をする						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. シラバス解説 (1)						
	2. Step 1 —Step 10 主語と動詞、フレーズリーディング、代名詞、物語の流れ、5W 1H- 情報を探す、未知語、パラグラフの構造などのリーディングストラテジーを知り実践する (12)			フレーズごとに区切った音読ができる	B1:2	リーディングストラテジーを学ぶ	B1:1, 2
	3. 試験範囲のまとめ (1)			語句と英文の内容理解	B1:1, 2	パラグラフの主題と構造を理解	B1:1, 2
	[前期中間試験] (1)			ワークブック演習	B1: 2		
	4. 答案返却・解答 (1)			フレーズごとに区切った音読ができる	B1:2		
	5. Lesson 1 In a moment (5)			語句と英文の内容理解	B1:1, 2		
	7 .L 2 Costa Rica (7)			パラグラフの主題と構造を理解	B1:1, 2		
	8. 試験範囲のまとめ (1)			ワークブック演習	B1: 2		
	前期末試験 (1)						
	10. 答案返却・解答 (1)			フレーズごとに区切った音読ができる	B1:2		
	11. Lesson3 A cat dish (4)			語句と英文の内容理解	B1:1, 2		
	12. Lesson4 Little tern (8)			パラグラフの主題と構造を理解	B1:1, 2		
	13. 試験範囲のまとめ (1)			ワークブック演習	B1: 2		
	[後期中間試験] (1)						
	14. 答案返却・解答 (1)			フレーズごとに区切った音読ができる	B1:2		
	15. Lesson5 Englishes (6)			語句と英文の内容理解	B1:1, 2		
	17. Lesson7 Global Warming (6)			パラグラフの主題理解	B1:1, 2		
	18. 試験範囲のまとめ (1)			ワークブック演習	B1: 2		
後期末試験 (1)							
19. 答案返却・解答 (2)							
評価方法	定期試験 80%, 取り組み態度, レポートなどを 20%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 I (2年)						
教材	Exceed English Reading New Edition (三省堂) Exceed English Reading Workbook (三省堂)						
備考	英和辞書を持参すること						

科目名	保健・体育 Health and Physical Education			担当教員	有馬弘智・横山学		
学年	4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	12G04_20120	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は下級生の時に修得しているので、ゲーム中心の内容で授業を行う。その中で各種 目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度を 取り入れ、自分の興味のある種目を選択させることで、社会体育への継続を目指す。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【スポーツテスト】 2. 記録測定(3) ----- [前期中間試験]			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえ るようになる。 F2:1-4 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
	【ソフトボール・ゴルフ選択】 3. 選択授業の説明、種目の決定(1) 4. ゲーム(9) 5. 実技試験(1) 前期末試験			選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目 を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、 正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の 向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	【テニス・バスケットボール選択】 6. 選択授業の説明、種目の決定(1) 7. ゲーム(6) 8. 実技試験(1) ----- [後期中間試験]			選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目 を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、 正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の 向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	【サッカー・ソフトバレーボール選択】 9. ゲーム(6) 10. 実技試験(1) 後期末試験			選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目 を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、 正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の 向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	独語 I German I			担当教員	小阪 清行		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20190	単位区別	履修
学習目標	語学の学習を通して、広い視野の獲得を目指す。特にEUの存在が大きく取り上げられる今日、ヨーロッパを、その文化の根底から理解することに力を注ぎたい。そのため、文学・思想・宗教・歴史などにも触れる。						
進め方	文法説明 → 訳読 → ドリル → 会話練習 → 会話テスト						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. オリエンテーション	(2)					
	2. ドイツ語ってどんな言葉?	(2)					B1:1
	3. 難しくないよ, ドイツ語の発音	(2)		発音に慣れる			B1:1
	4. でも, 甘くはないよ文法は	(2)					B1:1
	5. やってみよう, ドイツ語で自己紹介	(2)					B1:1
	6. 覚えよう, 動詞の変化, 会話テスト	(2)		動詞の人称変化の理解			B1:2, B2:2
	7. へー, ドイツ語って英語とこう違うんだ	(2)					B1:1
	[前期中間試験] (1)						
	8. 答案返却・解答	(1)					
9. 机は男性, 黒板は女性, 少女は中性…!?	(2)					B1:1	
10. 格変化って, 何?	(2)		名詞の格変化の理解			B1:1	
11. アイラブユーをドイツ語で	(2)		人称代名詞の理解			B1:1	
12. 動詞が二つにチョン切れる	(2)		分離動詞の理解			B1:1	
13. 動詞がひっくり返ったり, 飛んでったり	(2)		定動詞後置・倒置の理解			B1:1	
14. 会話テスト	(2)					B1:2, B2:2	
15. 模擬テスト	(2)					B1:1	
前期末試験							
16. 答案返却・解答	(1)						
17. 忘れたドイツ語思い出そう	(3)					B1:1	
18. 前期よりちょっと高度の自己紹介	(2)					B1:1	
19. 文法のブラッシュ・アップ	(2)					B1:1	
20. 「あなたはドイツ語を喋れますか?」	(2)		助動詞の理解			B1:1	
21. ドイツのビデオを観よう	(2)					B1:1	
22. 模擬テスト, 会話テスト	(2)					B1:2, B2:2	
[後期中間試験] (1)							
23. 答案返却・解答	(1)					B1:1	
24. 『聖しこの夜』をドイツ語で	(3)					B1:1	
25. 年の瀬はもちろん『第九』	(2)					B1:1	
26. 「私は昨日コンサートにいきました。」	(3)		過去形の理解			B1:1	
27. これ(↑)をドイツ語では現在完了で	(3)		現在完了形の理解			B1:1	
28. 模擬テスト, 会話テスト	(2)					B1:2, B2:2	
後期末試験							
29. 答案返却・解答	(1)						
評価方法	定期試験を70%, 平常点(会話テストなど)を30%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書: 小阪 清行 他著 『新緑のドイツ語』(第三書房)						
備考	特になし						

科目名	数学概論 I Mathematics Seminar I			担当教員	橋本竜太		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20240	単位区別	履修
学習目標	一変数および多変数の微分積分学の復習を通じて学力の向上を図り、編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入入学するのに十分な実力を養成する。						
進め方	問題を解く練習を通じて既習内容の復習・補完をし、数学の学力の向上と定着を図ると共に本校への編入学生や大学へ編入入学を希望する学生の指導に資する。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 極限と微分法(8) (1) 関数の極限(1) (2) 導関数, 微分法(2) (3) 関数の展開, 級数の収束性(2) (4) 微分法の応用(2)			関数の極限の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3 一変数関数の微分が計算でき, それらの応用ができる。 D1:3 級数の収束・発散の判定およびそれらの応用ができる。 D1:3			
	[前期中間試験](2)						
	(5) 試験問題の解答(1)						
	2. 積分法(15) (1) 不定積分の計算(3) (2) 定積分の計算(2) (3) 積分方程式(2)			一変数の積分の計算ができる。 D1:3			
	前期末試験						
	(4) 試験問題の解答(1) (5) 区分求積法(1) (6) 積分による計量(3) (7) 広義積分(2)			一変数の積分の応用ができる。 D1:3			
	[後期中間試験](2)						
(8) 試験問題の解答(1)							
3. 多変数関数の微分積分(7) (1) 偏微分の計算とその応用(3) (2) 重積分の計算とその応用(3)			偏微分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3 重積分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:3				
後期末試験							
(3) 試験問題の解答(1)							
評価方法	定期試験90%, レポート等10%の比率で総合的に評価する。講義妨害行為は減点措置の対象。						
履修要件	特になし。						
関連科目	{微分積分学(3年), 応用解析学} → 数学概論 I						
教材	教員作成プリント。第3学年までに使用した数学教科書や問題集。						
備考	講義時間外の演習なしでの単位取得は無理と心得ること。講義内容への集中を妨げる行為は御法度。						

科目名	数学概論Ⅱ Mathematics SeminarⅡ			担当教員	田村 恭士		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20250	単位区別	履修
学習目標	複素関数の解析学，すなわち複素関数論は，理工学において広い応用をもつことから，基礎的な教養として一度学んでおく必要がある。本科目では，実関数の積分への応用を主要なテーマとして，複素関数論への入門となる内容を学習する。その学習を通して，計算力の強化および数学的論理思考能力の養成を目指す。						
進め方	指定教科書に沿って学習内容を解説していく講義形式。小テストやレポート作成を通して学習内容の定着を図る。各自の自主的な予習復習は必須。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 複素数と複素関数(7) (1) 複素数の四則演算 (2) 2次方程式や高次方程式の求解 (3) 複素数平面と四則演算 (4) 極形式，複素数のべき乗 (5) ドモアブルの定理，1のべき根 (6) 指数関数や三角関数			複素数の基本的な計算ができる。 D1:2			
	[前期中間試験] (2)						
	(7) 試験問題の解答 2. 曲線と複素関数の微積分(8) (1) 正則関数 (2) コーシー・リーマンの微分方程式 (3) 複素関数の複素微分 (4) 曲線の媒介変数表示 (5) 実変数複素関数の微積分 (6) 複素積分の定義 (7) 復習：正則関数と複素微分			基本的な複素関数の微積分が計算できる。 D1:2			
	前期末試験						
	(8) 試験問題の解答 3. 複素積分と留数定理(7) (1) 多項式や有理式の一周積分 (2) コーシーの積分定理と積分公式 (3) グルサの公式 (4) 極、留数、留数定理 (5) 有理式の留数定理 (6) 三角関数の有理式の実積分への応用			コーシーの積分定理を理解する。 D1:3 留数の基本的な計算ができる。 D1:2			
	[後期中間試験] (2)						
(7) 試験問題の解答 4. 複素積分の応用(7) (1) 複素関数の評価 (2) 複素積分の評価 (3) 有理式の無限積分の計算 (4) 三角関数を含む無限積分の計算 (5) 復習：複素積分の実積分への応用			複素積分を利用して実積分を計算できる。 D1:3				
後期末試験							
5. 試験返却・解答(1)							
評価方法	定期試験(80%)およびレポート(20%)で総合評価する。ただし，比率は目安であり，受講生の受講状況を踏まえて変更することがあり得る。受講姿勢の不良な学生の評価は行わない。						
履修要件	特になし。						
関連科目	{基礎数学，微分積分学，応用解析学} → 数学概論Ⅱ ↔ {数学概論Ⅰ，応用数学}						
教材	教科書：「複素関数概説」(サイエンス社) 参考書：高等学校「数学Ⅱ」の教科書や参考書 参考書：「応用数学」(大日本図書)						
備考	内容が難しいので，問題演習を積極的に行うこと。						

科目名	英語IV English IV			担当教員			
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20270	単位区別	履修
学習目標	英語を学ぶときには、4技能の習得が不可欠である。この授業では、特に四技能全ての力を支える文法知識と語彙知識を育成することに重点を置く。						
進め方	1. 教科書を使った精読により、文法や語彙や語法に気をつけながら丁寧に読み読解力を高める。 2. 自作プリントを使用し、資格試験に備える。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	読解力の強化(8) 教科書 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 自作プリント (7) 資格試験に備える英語力をつける。 ----- 前期中間試験			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。自作プリントでの学習では、TOEIC テストのPart 5を中心に学習する。文法事項の確認に努める。 B1:1-2 B2:1-2			
	試験問題の解答(1), 読解力の強化(7) 教科書 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 自作プリント (7) 資格試験に備える英語力をつける。			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。自作プリントでの学習では、TOEIC テストのPart 5を中心に学習する。文法事項の確認に努める。 B1:1-2 B2:1-2			
	前期末試験						
	試験問題の解答(1), 読解力の強化(7) 教科書 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 自作プリント (7) 資格試験に備える英語力をつける。 -----			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。自作プリントでの学習では、TOEIC テストのPart 5を中心に学習する。文法事項の確認に努める。 B1:1-2 B2:1-2			
試験問題の解答(1), 読解力の強化(7) 教科書 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 自作プリント (7) 資格試験に備える英語力をつける。 後期末試験			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。自作プリントでの学習では、TOEIC テストのPart 5を中心に学習する。文法事項の確認に努める。 B1:1-2 B2:1-2				
試験問題の解答(1)							
評価方法	年4回の定期試験を70%、課題・取り組み態度などを30%の比率で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	1. Science View (成美堂) 2. 自作プリント						
備考	積極的な授業参加を求める。						

科目名	英語IV English IV			担当教員	鳥越 洋子		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20270	単位区別	履修
学習目標	英語を学ぶときには、4技能の習得が不可欠である。この授業では、特に四技能全ての力を支える文法知識と語彙知識を育成することに重点を置く。						
進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を使った精読により、文法や語彙や語法に気をつけながら丁寧に読み読解力を高める。 2. 多読活動により、英語の速読力、語感を養う。 3. 聴解演習により、聴解力を高める。 						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	精読(8) 教科書・プリントなど 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 多読(7) 英語を大量にインプットすることで、英語の語感や英語を英語として捉える習慣を身につける。			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。多読では、英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。 B1:1-2 B2:1-2			
	精読(8) 教科書・プリントなど 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 多読(7) 英語を大量にインプットすることで、英語の語感や英語を英語として捉える習慣を身につける。			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。多読では、英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。 B1:1-2 B2:1-2			
	前期末試験 試験問題の解答(1)、精読(7) 教科書・プリントなど 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 多読(7) 英語を大量にインプットすることで、英語の語感や英語を英語として捉える習慣を身につける。			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。多読では、英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。 B1:1-2 B2:1-2			
	精読(7) 教科書・プリントなど 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 多読(7) 英語を大量にインプットすることで、英語の語感や英語を英語として捉える習慣を身につける。 後期末試験 試験問題の解答(1)			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。多読では、英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。 B1:1-2 B2:1-2			
	試験問題の解答(1)						
評価方法	年2回の定期試験を80%、課題・取り組み態度などを20%の比率で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	『VOA science briefs』 『Hyper Listening Intermediate New Edition』						
備考	積極的な授業参加を求める。						

科目名	英語IV English IV			担当教員	下林 千賀子		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20270	単位区別	履修
学習目標	英語を学ぶときには、4技能の習得が不可欠である。この授業では、特に四技能全ての力を支える文法知識と語彙知識を育成することに重点を置く。						
進め方	1. 教科書を使った精読により、文法や語彙や語法に気をつけながら丁寧に読み読解力を高める。 2. 多読活動により、英語の速読力、語感を養う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	精読(7) Lesson 1-3 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 多読(7) 英語を大量にインプットすることで、英語の語感や英語を英語として捉える習慣を身につける。			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。多読では、英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。 B1:1-2 B2:1-2			
	精読(7) Lesson 4-6 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 多読(7) 英語を大量にインプットすることで、英語の語感や英語を英語として捉える習慣を身につける。			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。多読では、英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。 B1:1-2 B2:1-2			
	前期末試験						
	試験問題の解答(1)、精読(6) Lesson 7-9 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 多読(7) 英語を大量にインプットすることで、英語の語感や英語を英語として捉える習慣を身につける。			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。多読では、英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。 B1:1-2 B2:1-2			
	精読(7) Lesson 10-12 正確に英文を読み、音読、英作文等を通して英語を頭に残すことを目的とする。 多読(7) 英語を大量にインプットすることで、英語の語感や英語を英語として捉える習慣を身につける。			精読では、文法や語法に気をつけながら正確に英文が表す意味を捉えることで、英文読解力の向上を目標とする。多読では、英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える（和訳しない）習慣を身につけながら語感を養う。 B1:1-2 B2:1-2			
後期末試験							
評価方法	年2回の定期試験を80%、課題・取り組み態度などを20%の比率で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	『Asking Why?—The Science of Everyday Life Science Views』（金星堂）						
備考	積極的な授業参加を求める。						

科目名	哲学 Philosophy			担当教員	森 正幸		
学 年	4年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20300	単位区別	履修
学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊、人口爆発と貧困、グローバル経済と諸紛争、テクノロジーの発達に起因する負の影響など、諸問題が山積している。このような諸問題が即、日常生活レベルと通底していることが極めて現代的特徴であり、今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められている時代は他にない。豊富な思考資料の下、豊かな試行錯誤を心掛けたい。						
進め方	個体発生は系統発生を要約して繰り返す（マカ）と言われるように、個人の精神史と世界のそれとは局面はどうであれ関連している。哲学概説を兼ねて哲学する意味を考えたい。世界内存在としての自己と諸問題、そして哲学的知の拡がりに思いを馳せる。西洋哲学史を歴史的に鳥瞰しつつ哲学と時代を考察する。（時代を生きたこと 哲学と人生）						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 個人史としての哲学(哲学概説) (4)			自己を形成している精神内容を見つめる眼と 他者理解の態度を涵養する。 A1:3			
	2. 現代世界の諸問題と哲学(6)			世界の諸問題と世界内存在としての自己。 A1:4			
	3. 哲学知のさまざまなあり方(4)			さまざまな知的在り方があること理解する。 A3:4			
	4. 西洋哲学史概説(12) …神話 ソクラテス以前 ソクラテス, プラトン, アリストテレス ヘレニズム哲学 神学			歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し, 時代の役割を果たした事を知る。 A3:1 境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする。 A1:4			
	前期期末試験						
	5. 答案返却・解答(1)			哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産出した西洋哲学の特性について考える。 A1:3			
	6. 近代哲学と科学的思考そして現代哲学へ(18) デカルト 大陸合理論 イギリス経験論 カント, ヘーゲル, キルケゴール, マルクス ニーチェ etc			現代哲学の思考特性について考える。 A1:3 混迷の度を深める現代世界, 総合知・世界観としての哲学の重要性を知る。 A1:3:4 世界の偉大な知的伝統の十字路である日本とは何か…。 A1:3:4			
	7. 現代哲学(6) フッサール ハイデガー						
	8. 総合知、世界観としての哲学(4)						
9. Philosophy と哲学 (東洋的形而上学) (4)							
後期期末試験							
10. 答案返却・解答(1)							
評価方法	定期試験を主たる評価とし、レポートと平常点（受講態度）を加味する。意見発表など積極的に授業参加した者に対しては評価をする。						
履修要件	特になし。						
関連科目	特になし。						
教 材	教科書：なし 参考書：エズン・ゴルドン著「ソフィーの世界」NHK出版 木田 元 著「反哲学史」講談社学術文庫 木田 元 著「闇屋になりそこねた哲学者」晶文社 西 研 著「大人のための哲学授業」大和書房 竹田青嗣 著「中学生からの哲学『超』入門」ちくまプリマー新書						
備 考	テーマによっては映像を使用することもある。						

科目名	中国語 I Chinese I			担当教員	張 文		
学年	4 年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20400	単位区別	履修単位
学習目標	中国語の発音，日常用語，基礎的な文法を学習し，簡単な会話と文章を書ける能力を養成する。また中国語の学習を通じて中国社会的なことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに，学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に，繰り返し練習を行い，現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。前期は，中国語の入門（発音・語彙，日常用語，簡単な文法）を行い，後期は実用的文法（簡単な会話，簡単な文章）を行う。						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1	オリエンテーション、中国語概説	(2)	1～7			
	2	発音	(6)	中国語の特徴，学習法を習得し，発音を身につける。 B1:1, B2:1			
	3	軽声、声調の変化	(2)				
	4	「是」の構文、人称代名詞	(2)				
	5	副詞 「也」「都」、疑問詞疑問文	(2)				
	6	前期中間試験	(1)				
	7	動詞述語文、反復疑問文	(2)				
	8	形容詞述語文、形容詞を修飾する副詞	(2)				
	9	選択疑問文	(2)	9～13			
	10	比較文、助動詞「要」	(2)	あいさつなど定型的な日常会話の語彙・ B1:2, B2:2			
	11	「在」の構文	(2)	文法を理解することができ会話をおこなえる。			
	12	「有」の構文	(2)				
	13	前期の学習をまとめ	(2)				
	14	前期期末試験					
	15	試験の解答並びに授業評価アンケート	(2)				
	16	年月日の言い方、時刻の言い方	(2)	16～18			
	17	「了」の表現	(6)	日常的な会話にでてくる単語や文法 B1:2, B2:2			
	18	進行形の表し方	(2)	を理解し会話ができる。			
	19	結果補語、持続状態を表す「着」	(2)				
	20	後期中間試験	(1)	19～24			
	21	助動詞「会」	(4)	状況に応じた簡単な会話ができる。 B1:2, B2:2			
	22	経験の「過」	(2)				
	23	補語「得」	(2)				
	24	助動詞「能」	(4)				
	25	後期の学習をまとめ	(3)				
	26	学年末試験					
	27	試験問題の解答	(1)				
評価方法	定期試験 80%， 取組態度・課題などを 20%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	「一年生のころ (ビデオで学ぶ入門中国語)」改訂版						
備考	特になし						

科目名	英語特論 English for TOEIC			担当教員	出渕 幹郎		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_40012	単位区別	履修
学習目標	<p>英語習得には一定量以上のインプットが欠かせない。この授業では約100ページの英語を短時間で読むことを通し、日本語を介さず英語を直読直解する力を身につけることを目標とする。オーセンティックで洗練された英語を読むことで英語に対する感覚を養う。原書読書を通して英語圏の国の(子ども)文化に触れ、理解を深める。以上3点からのアプローチでTOEIC Part 7にある程度対応できる力を身につける。</p>						
進め方	<p>英米の児童、ヤングアダルト向けの短編読み物を学生との対話形式で読み進める。授業で読み進められなかった箇所は宿題とする。小説の内容について英問英答式のレポートを課す。</p>						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	A Necklace of Raindrops (4) The Cat Sat on the Mat (3) ----- [前期中間試験](1)			英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える(和訳しない)習慣を身につけながら英語速読力を養う。それがそのままTOEIC Part 7対策となる。 B1:1-2 B2:1-2			
	There's Some Sky in This Pie (4) The Elves in the Shelves (4) ----- 前期末試験			英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える(和訳しない)習慣を身につけながら英語速読力を養う。それがそのままTOEIC Part 7対策となる。 B1:1-2 B2:1-2			
	The Three Travelers (3) The Baker's Cat (4) ----- [後期中間試験](1)			英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える(和訳しない)習慣を身につけながら英語速読力を養う。それがそのままTOEIC Part 7対策となる。 B1:1-2 B2:1-2			
	A Bed for the Night (4) The Patchwork Quilt (4) ----- 後期末試験			英語を大量にインプットすることで、英語を英語のまま捉える(和訳しない)習慣を身につけながら英語速読力を養う。それがそのままTOEIC Part 7対策となる。 B1:1-2 B2:1-2			
	評価方法						
	年4回の定期試験を80%、レポート20%の比率で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語IV						
教材	『A Necklace of Raindrops』 Joan Aiken (Yearling)						
備考	特になし						

科目名	保健・体育 Health and Physical Education			担当教員	有馬弘智・横山 学		
学年	5年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	12G05_20120	単位区別	履修
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを 実践できるようにする。また、スポーツテスト等で個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはか る。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は下級生の時に修得しているので、ゲーム中心の内容で授業を行う。その中で各種 目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度を 取り入れ、自分の興味のある種目を選択させることで、社会体育への継続を目指す。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 年間授業の概要説明(1) 【スポーツテスト】 2. 記録測定(3) [前期中間試験]			年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえ るようにする。 F2:1-4 毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 し、運動能力の向上を目指す。 F1:1-4			
	【ソフトボール・ゴルフ・ バドミントン選択】 3. 選択授業の説明、種目の決定(1) 4. ゲーム(9) 5. 実技試験(1) 前期末試験			選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目 を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、 正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の 向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	【サッカー・バスケットボール・ ソフトバレーボール選択】 6. 選択授業の説明、種目の決定(1) 7. ゲーム(7) [後期中間試験]			選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目 を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、 正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の 向上を目指す。 F2:1-4, F3:1-5			
	8. ゲーム(6) 9. 実技試験(1) 後期末試験						
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	自然特論 Topics in Natural Science			担当教員	村上 公一		
学 年	5 年	学 期	前期	履修条件	選択	単位数	1
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G05_20220	単位区別	履修
学習目標	近代自然科学の重要な成果の一つである特殊相対性理論を学ぶことを通して、近代自然科学の考え方、手法に慣れ親しむ。また同時に力学・電磁気学の理解を深めることも目標とする。						
進め方	特殊相対性理論の理解の要諦であるローレンツ変換について学ぶ。ローレンツ不変性から導かれる物理的な帰結を学ぶと同時に、その数学的な側面を学んで理論の対称性について理解を深める。最後に電磁気学の持つ相対論的な構造を学ぶ。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	1. 力学と電磁気学の復習 (2) 2. 光の伝播とマイケルソン-モーレーの実験 (2) 3. 特殊相対性原理 (2) 4. ローレンツ変換 (2) 5. ミンコフスキーの 4 次元時空 (2) 6. ローレンツ変換の物理的帰結 I (2) 7. ローレンツ変換の物理的帰結 II (2) 8. テンソル代数 I (2)			ガリレイ不変性とは何かを理解する。 D1:1,2 相対性原理, 特に光速不変性とは何かを理解する。 D1:1 ローレンツ変換を理解し、そこから導かれる物理的帰結を計算できる。 D1:1,2			
	9.[前期中間試験] (2)						
	10. 試験問題の解答 (2) 11. テンソル代数 II (2) 12. 相対論的力学 I (2) 13. 相対論的力学 II (2) 14. 電磁気学の相対論的な構造 I (2) 15. 電磁気学の相対論的な構造 II (2)			ニュートン方程式をローレンツ不変な形に拡張した方程式を簡単な系に適用できる。 D1:1,2 電磁気学が特殊相対性原理を満たしていることを理解する。 D1:1			
	16. 前期末試験						
	17. 試験問題の解答 (2)						
評価方法	定期試験 80%, 学習状況・レポートなど 20% の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	物理, 応用物理 I, 応用物理 II						
教 材	参考書: 中野董夫 著 「相対性理論」 物理入門コース 9 (岩波書店)						
備 考	特になし						

科目名	数学概論Ⅲ Mathematics SeminarⅢ			担当教員	南 貴之		
学 年	5 年	学 期	前期	履修条件	選択	単位数	1
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G05_20260	単位区別	履修
学習目標	一変数および多変数の微分積分学，線形代数学の復習を通じて学力の向上を図り，編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入学するのに十分な実力を養成する。						
進め方	問題を解く練習を通じて既習内容の復習・補完をし，数学の学力の向上と定着を図ると共に本校への編入学生・大学へ編入学を希望する学生の指導に資する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 行列・行列式(4) (1) 行列・行列式の計算 (2) 行列・行列式的应用 2. ベクトル・ベクトル空間と一次変換(6) (1) ベクトル空間 (2) 部分空間 (2) 一次変換 3. 固有値・固有ベクトル(4) (1) 固有値・固有ベクトルの計算 (2) 固有値・固有ベクトルの应用			行列・行列式の計算およびそれらの应用ができる。 D1:3 ベクトル空間の定義を理解し、その应用ができる。 D1:3 固有値・固有ベクトルの計算およびそれらの应用ができる。 D1:3			
	[前期中間試験] (2)						
	4. 試験問題の解答(1) 5. 微分方程式(6) (1) 一階微分方程式 (2) 線形微分方程式 (2) 高階微分方程式 6. 偏微分(4) (1) 偏微分の計算 (2) 偏微分的应用 7. 重積分(4) (1) 重積分の計算 (2) 重積分的应用			与えられた微分方程式の解を求めることができる。 D1:3 偏微分の計算およびそれらの应用ができる。D1:3 重積分の計算およびそれらの应用ができる。 D1:3			
	前期末試験 試験返却・解答(1)						
評価方法	定期試験90%，レポート等10%の比率で総合的に評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	基礎数学Ⅱ → 微分積分学，応用解析学 → 数学概論Ⅲ						
教 材	プリントによる問題集，今までに使用した教科書						
備 考	時間数が少ないので，できる限り独力で多くの問題を解き，添削を受けたり質問をしたりすることを期待する。						

科目名	英語V English V			担当教員	森 和憲		
学年	5年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G05_20280	単位区別	履修
学習目標	1. リーディング教材や Graded Readers を解くことで英語の文章の読解力を養う 2. ものづくり英会話を通じて発音と会話力を鍛える 3. 文法問題を解くことでコミュニケーション能力の基礎を築く						
進め方	1. リーディング教材を解く 2. 多読教材を読み、読書記録を書く 3. 文法の演習問題を課題として与える 4. ものづくり英会話を実施						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	多読・文法学習（11） 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 ものづくり英会話（4）			自分に合ったレベルの本を選び、その内容を理解することができる B1:1,2 読書記録を続けて、学習を自己管理できる。 B1:1,2 文法問題を解くことでコミュニケーション能力の基礎を築く B1:1,2 短い英文で自分の言いたいことを表現する B1:1,2			
	前期末試験						
	多読・文法学習（11） 多読教材を選び読書後、読書記録を記入 文法教材を宿題として提出 ものづくり英会話（4）			自分に合ったレベルの本を選び、その内容を理解することができる B1:1,2 読書記録を続けて、学習を自己管理できる。 B1:1,2 文法問題を解くことでコミュニケーション能力の基礎を築く B1:1,2 短い英文で自分の言いたいことを表現する B1:1,2			
後期末試験							
評価方法	期末試験を 60%，レポート 20%，提出物 20%。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語VI						
教材	Focus Finder 英文法・語法問題（桐原書店） Reading Navi Standard（啓林館）						
備考	特になし						

科目名	英語 VI English VI			担当教員	出渕 幹郎		
学年	5年	学期	後期	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G05_20281	単位区別	履修
学習目標	TOEIC IP において350点（公開試験400点）をクリアするべき目標に置き、学年末の TOEIC IP で少しでも高得点を目指す。						
進め方	前半45分をリスニング、後半45分をリーディングと文法・語彙の学習に当てる。 後期中間試験までは基礎的訓練を、後期中間試験以後は TOEIC に特化した訓練を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			

	ESL 教材を用いたリスニング (7) 教科書を用いたリーディング (7)			ESL リスニング教材や英米のポップソングの内容が自然に理解できる。 教科書の語彙やコロケーションを理解できる。 B1:1-2 B2:2			
	[後期中間試験](1)						
	TOEIC Part 1,2 の練習 (6) TOEIC Part 3,4 の練習 (1) TOEIC Part 5 の練習 (7)			TOEIC Part 1,2 に 50%程度、Part 3,4 に 35%程度正解できる。 TOEIC Part 5 に 35%程度、Part 5,6 に 45%程度正解できる。 B1:1-2 B2:2			
	後期末試験 (TOEIC IP)						
評価方法	後期中間試験を50%、後期末試験を50%で評価する。 後期末試験は TOEIC IP を受験する。 中間試験、期末試験のうち少なくともどちらか片方に合格すれば50点を与える。						
履修要件	特になし						
関連科目	英語 V						
教材	前半：『A Complete College English Program Book 3』金星堂、ハンドアウト教材 後半：ハンドアウト教材						
備考	特になし						

科目名	独語Ⅱ German II			担当教員	小阪 清行		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G05_20290	単位区別	履修
学習目標	語学の学習を通して、広い視野の獲得を目指す。特にEUの存在が大きく取り上げられる今日、ヨーロッパを、その文化の根底から理解することに力を注ぎたい。そのため、文学・思想・宗教・歴史などにも触れる。						
進め方	文法説明 → 辞書を使つての訳読 → 会話練習 → 会話テスト						
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標			
	1. 日本とドイツ、シーボルトA	(2)		受け身について理解する	B1:1		
	2. 日本とドイツ、シーボルトB	(2)			B1:1		
	3. 第九の初演、ドイツ兵俘虜A	(2)			B1:1		
	4. 第九の初演、ドイツ兵俘虜B	(2)			B1:1		
	5. 会話テスト	(2)			B1:2, 2:2		
	6. ゲーテの生涯A	(2)		過去形と現在完了形を理解する	B1:1		
	7. ゲーテの生涯B	(2)			B1:1		
	[前期中間試験] (1)						
	8. 答案返却・解答	(1)					
	9. ユダヤ人はなぜ迫害されたのか?A	(2)			B1:1		
	10. ユダヤ人はなぜ迫害されたのか?B	(2)			B1:1		
	11. ユダヤ人はなぜ迫害されたのか?C	(2)			B1:1		
	12. 会話テスト	(2)			B1:2, B2:2		
	13. ヒトラーと抵抗運動についてA	(2)		関係代名詞の用法を把握する	B1:1		
14. ヒトラーと抵抗運動についてB	(2)			B1:1			
15. 模擬テスト	(2)			B1:1			
前期末試験							
16. 答案返却・解答	(1)						
17. ヒトラーと抵抗運動についてC	(2)			B1:1			
18. EUの言語はどうなるのか?A	(2)			B1:1			
19. EUの言語はどうなるのか?B	(2)			B1:1			
20. EUの言語はどうなるのか?C	(3)			B1:1			
21. アーミッシュって何?A	(2)		接続法を理解する	B1:1			
22. 模擬テスト, 会話テスト	(2)			B1:2, B2:2			
[後期中間試験] (1)							
23. 答案返却・解答	(1)			B1:1			
24. アーミッシュって何?B	(2)			B1:1			
25. アーミッシュって何?C	(3)			B1:1			
26. アインシュタインの生涯A	(3)			B1:1			
27. アインシュタインの生涯B	(3)			B1:1			
28. 模擬テスト, 会話テスト	(2)			B1:2, B2:2			
後期末試験							
29. 答案返却・解答	(1)						
評価方法	定期試験を70%, 平常点(会話テストなど)を30%の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	特になし						
教材	教科書: 小阪清行他著 「新緑のドイツ語」(4年生のとき使用したもの)						
備考							

科目名	法学 Law			担当教員	山岡健次郎		
学 年	5 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G05_20310	単位区別	履修
学習目標	法と社会との関係性について学ぶ。私たちは日々、法に取り囲まれて生活しているが、法を意識することは少ない。法は私たちの生活とどのような接点を持つのか。法の限界とは何か。そうした問題について原理的に考えていく。						
進め方	講義形式で行う。 必要に応じて、学生による文献発表なども取り入れていく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. イントロダクション (2) 2. 法はあなたにとってどういう存在か (3) 3. 何のための国家か (2) 4. 平和と自己防衛を目指す国家 (2) 5. 個人の権利を保障する国家 (2) 6. 自由を保全する国家 (2) 7. 永遠に完成しない国家 (2)			法についての原理的な理解を深める		A3:1	
	[前期中間試験] (2)			国家と法との歴史的関係性を理解する		A3:2	
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 人々がともに生きるための立憲主義 (2) 10. 法の規範性と強制力 (2) 11. 法と道德の関係 (2) 12. 法が法として機能する条件 (2) 13. 法と国家—どちらが先か (2) 14. なぜ多数決か (2) 15. 民主政の過去から学ぶ (2)			立憲主義の精神を把握する		A3:3	
	前期末試験			過去の事例から民主制のあり方を問う		A3:2	
	16. 答案返却・解答 (1) 17. 法に従う義務はあるか (2) 18. 憲法とはなにか (2) 19. 刑法の基礎 (2) 20. 刑事訴訟法の基礎 (2) 21. 裁判員制度について (2) 22. パスポートという制度 (2) 23. 国際労働力移動と法 (2)			憲法の根本原理を把握する		A3:3	
	[後期中間試験] (2)			裁判員制度についての理解を深める		A3:2	
	24. 答案返却・解答 (1) 25. 国民と外国人 (3) 26. 外国人定住化問題 (3) 27. 難民とは誰か (3) 28. 法の限界 (2) 29. まとめ (2)			グローバル化する人の移動と法との関係性を理解する		A3:2	
	後期末試験			法の限界を知る		A3:1	
	30. 答案返却・解答 (1)						
評価方法	4回の定期試験の平均点によって評価。						
履修要件	特になし						
関連科目	政治経済 (3年)						
教 材	教科書：長谷部恭男 著『法とは何か 法思想史入門』 河出ブックス						
備 考	特になし						

科目名	中国語 II Chinese II			担当教員	前崎 麗		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G05_20410	単位区別	履修単位
学習目標	中国語 I で学習した中国語の発音, 日常用語, 基礎的な文法と簡単な会話と文章構築能力を基に, 中国語の能力をさらに向上させる。また中国語の学習を通じて中国社会のことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに, 学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に, 繰り返し練習を行い, 現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。						
学習内容	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
	中国の朝食 A	(2)		1~3	基本的な文法項目 (1) を習得し簡単な文章を構築する力, 簡単な会話力をつける。B1:1, B2:1		
	中国の朝食 B	(2)					
	服をオーダーメイドする A	(2)					
	服をオーダーメイドする B	(2)					
	‘贅沢’な映画 A	(2)					
	‘贅沢’な映画 B	(2)					
	割り勘 A	(2)					
	[前期中間試験]	(1)					
	答案返却・解答 割り勘 B	(2)		4~7	基本的な文法項目 (2) を習得し簡単な文章を構築する力, 簡単な会話力をつける。B1:2, B2:2		
	お腹を壊す	(2)					
	お腹を壊す	(2)					
	携帯電話がなくなった A	(2)					
携帯電話がなくなった B	(2)						
席取り A	(2)						
席取り B	(3)						
前期末試験							
答案返却・解答	(2)		8~10	基本的な文法項目 (3) を習得し簡単な文章を構築する力, 簡単な会話力をつける。B1:2, B2:2			
ネット恋愛 A	(2)						
ネット恋愛 B	(2)						
感謝を表す習慣 A	(2)						
感謝を表す習慣 B	(2)						
1人っ子政策 A	(2)						
2人っ子政策 B	(2)						
[後期中間試験]	(1)						
答案返却・解答	(2)		11~12	基本的な文法項目 (4) を習得し簡単な文章を構築する力, 簡単な会話力をつける。B1:3, B2:2			
若い者の就職観 A	(2)						
若い者の就職観 B	(2)						
若い者の就職観 C	(2)						
私の中国語学習に対して新しい認識 A	(2)						
私の中国語学習に対して新しい認識 B	(2)						
後期の学習のまとめ並びに授業評価アンケート	(1)						
後期末試験							
答案返却・解答	(2)						
評価方法	定期試験 80%, 取組態度・課題などを 20%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書: 内田 慶市 など著 「中国語への道」 準中級編 (CD付) 金星堂						
備考	特になし						

科目名	教育支援活動			担当教員			
学年			通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	12G15_20420	単位区別	履修単位
学習目標	1. 他者を援助する態度を育てる。 2. 世界は人間同士のお互いの交流の上に成り立つという意識を育む。						
進め方	関係団体が提供する業務への参加や下記の活動に参加する。 環境保全・災害での救助や復旧・介護・国際交流・体育や文化・各種行事・その他校長が特に認めたこと。						
履修要件	特になし						
	学習項目			(時間数)	学習到達目標		
学習内容	1						
	2	上記のさまざまな活動に参加する。	(45)	他者を援助する態度を育てる。	A3:3		
	3				世界は人間同士のお互いの交流の上に成り立つという意識を育む。	A3:3	
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
	31						
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	総合評価する。						
関連科目							
教材	なし						
備考	特になし						